

会員の活動報告

(2010年11月～2011年10月)

伊川 徹

- 若手教員の悩み相談（橋本まや香・前田美樹との共著、RENCONTRES 25、2011年7月）
- 若手教員の悩み相談室（橋本まや香・前田美樹との共同発表、第25回関西フランス語教育研究会、於大阪日仏センター＝アリアンス・フランセーズ、2011年3月）

伊地知 均

- 書評 ソフィアンの本棚 小倉博考編 『コルネイユの劇世界』（SUP上智大学出版 2010年（『ソフィア』（上智大学）第235号、2010年秋季第59巻第3号、2011年9月）

伊藤誠宏

- 『17世紀フランス文法家証言集』 — Vaugelas, *Nouvelles remarques sur la langue française* をめぐって —（関西大学出版部、2011年3月）
- 『ヨーロッパ・ジェンダー文化論』（共著、明石書店、2011年4月）

奥 純

- アラン・ロブ＝グリエにおけるエグゾチスム（2）、（『仏語仏文学』第37号、2011年3月）

川神傳弘

- サルトルとカミュの *homo homini lupus*（『仏語仏文学』第37号、2011年3月）

笹倉塩子

- L'impact de la Chine sur la culture française au XVIe et XVIIe siècle（『仏語仏文学』第37号、2011年3月）

太治和子

- フランス語母語話者の動詞時制習得調査と Beauzée の時制論（『仏語仏文学』第37号、2011年3月）

高岸敦夫

- 映画『食人族』とモンテーニュの食人言説（『仏語仏文学』第37号、2011年3月）

田島義士

- ランボー作品における花のエクリチュール — 花について詩人が「語った」こと —（『仏語仏文学』第37号、2011年3月）

田中 良

- サロンと仕掛 — 『失われた時を求めて』におけるサロンの働き —（『仏語仏文学』第37号、2011年3月）
- ジャポニスム — 印象派と浮世絵を中心に —（口頭発表、奈良大学主催「保護者への集い」（東京）にて、2011年9月）

津川廣行

- 『ジュヌヴィエーヴ』にみるその「失敗」の意味 — 「複雑系」の観点から —（『仏語仏文学』第37号、2011年3月）

友谷知己

- 『フランス17世紀演劇事典』（共著、中央公論新社、2011年3月）
- 『フランス十七世紀の劇作家たち』（共著、中央大学出版部、2011年3月）
- 「ラシーヌに於ける悲劇的人物のコンセプト — 中庸・過誤・良さ」（早稲田大学演劇博物館『演劇映像学』、2011年3月）
- 『フランス十七世紀演劇集 悲劇』（共訳、中央大学出版部、2011年2月）
- 千川哲生『論争家コルネイユ』（書評、日仏演劇協会会報、2010年12月）

豊永知恵子

- 最近の学生のアルファベット筆記体に関する考え並びにペン筆写の効用と提案（『仏語仏文学』第37号、2011年3月）

出口由美

- フランスメディアの科学ディスコースにおける「感情」の想定 — 電磁波問題を中心に —（『仏語仏文学』第37号、2011年3月）

内藤義博

- Histoire de la critique de l'opéra français au XVIIe siècle (『仏語仏文学』第37号、2011年3月)

野浪嗣生

- モーパッサンの粹組を持つ短編小説 ― 冒頭の局面と第二の語り手 ― (『仏語仏文学』第37号、2011年3月)

円尾 健

- 渡辺一夫『フランス・ユマニスムの成立』(1957年)を読んで(続)(『仏語仏文学』第37号、2011年3月)

柳美希子

- 『人間喜劇』における詩人について(『仏語仏文学』第37号、2011年3月)

山川清太郎

- 書評：三浦信孝・西山教行(編)(2010)『現代フランス社会を知るための62章』明石書店(ルビュ言語文化教育(RLCE)356号(メールマガジン)、2011年2月)
- 「コンピュータ・フランス語」(授業報告、第24回獨協大学フランス語教授法研究会、(2011年3月))
- 「コンピュータ・フランス語」(口頭発表、授業報告第24回獨協大学フランス語教授法研究会、2010年12月)

リコ-ヨコヤマ アドリアナ

- « *Panorama religieux dans la France d'aujourd'hui – ou du détournement des notions de culture et de religion à des fins politiques* » (関西大学『文学論集』第60巻第3号、2010年12月)
- « *Quelle place faut-il accorder aux sciences humaines et sociales dans l'enseignement-apprentissage du Français ?* » (口頭発表、日本フランス語教育学会2011年度春季大会、2011年5月、於専修大学)

修士論文題目

2011年3月

上野由夏子

ジャポニズムにおける日本文化の受容

桑野圭太

Albert Camus 「反抗」の思想における視点の移行

— 自己充足的「反抗」から社会規範としての「反抗へ」

川合志保

フランスらしさの表象

— ミネラルウォーターのテレビ広告分析を通して —

後 記

このたび永年にわたり本学会に貢献してこられました野浪嗣生教授が、2012年3月末をもって退職されることになりました。この『仏語仏文学第38号』をご退職の記念号とさせていただきますが、多数の原稿をおよせいただきました会員の皆様および本号の刊行にご協力をいただきました皆様には厚く御礼を申し上げます。

本学会2011年度研究発表会・総会が2011年12月17日（土）午後1時から、関西大学千里山キャンパス第1学舎AV-A教室において開催されました。4名の会員諸氏による研究発表会は和やかな中にも活発な質疑応答で盛り上がり、充実した研究発表会となりました。当日の発表者と発表題目を以下に紹介しておきます。

1. モンテーニュとブラジル

本学大学院博士課程後期課程 高岸敦夫 氏

2. *Préface à une vie d'écrivain* について

本学教授 奥 純 氏

3. 『鎖を離れたプロメテウス』にみる「意識」の発生

— 「自律体」(Autonomous Agents)の観点から—

大阪市立大学教授 津川廣行 氏

4. 十七世紀初頭の残酷劇について

本学教授 友谷知己 氏

末尾ながら、会員各位のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

(編集委員会)

関西大学フランス語フランス文学会々則

1. 本会は関西大学フランス語フランス文学会 (Société de langue et littérature françaises de l'Université Kansai/Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) と称し、事務所を関西大学文学部フランス語フランス文学専修合同研究室に置く。
2. 本会はフランス語フランス文学に関する研究および発表と、これに関連する事業を行なうことを目的とする。
3. 本会は次の事業を行なう。
 1. 機関誌「仏語 仏文学」(Bulletin de la Société de langue et littérature françaises de l'Université Kansai/The Bulletin of Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) およびその他の出版物の刊行。
 2. 研究会・講演会の開催。
 3. その他本会の目的にかなう事業。
4. 本会はその目的に賛同する次の会員をもって構成する。
 1. 関西大学文学部総合人文学科フランス語フランス文学専修専任教員。
 2. 関西大学大学院文学研究科フランス文学専攻・専修学生、およびその修了者 (旧学科名称時の大学院修了者を含む)。
 3. 関西大学文学部総合人文学科フランス語フランス文学専修学生、およびその卒業生 (旧学科名称時の学部卒業生を含む)。
 4. 本会の趣旨に賛同し、入会を認められた者。
5. 本会の目的を達成するため会費を納入する。
6. 本会に次の役員を置く。その任期は1年とし、重任を妨げない。
 1. 会長 1名
 2. 委員 若干名
 - a. 企画委員
 - b. 編集委員
 - c. 庶務・会計委員会長と委員によって委員会を構成し本会の実務の運用に当り会長はこれを統括する。
7. 会員は機関誌「仏語 仏文学」等の配布をうける。また会員は機関誌への投稿、および本会の行なう事業に参加することができる。なお、投稿論文は、会則6に定める委員会の議を経て掲載される。
8. 本会の重要事項は総会の議決による。

(2007年4月1日から施行)

仏語 仏文学 第38号

2012年3月15日 発行

編集・発行 関西大学フランス語フランス文学会
吹田市山手町 関西大学
フランス学研究室
印刷所 株式会社 遊文舎
大阪市淀川区木川東4丁目17番31号
電話 (06) 6304-9325(代)

(非売品)